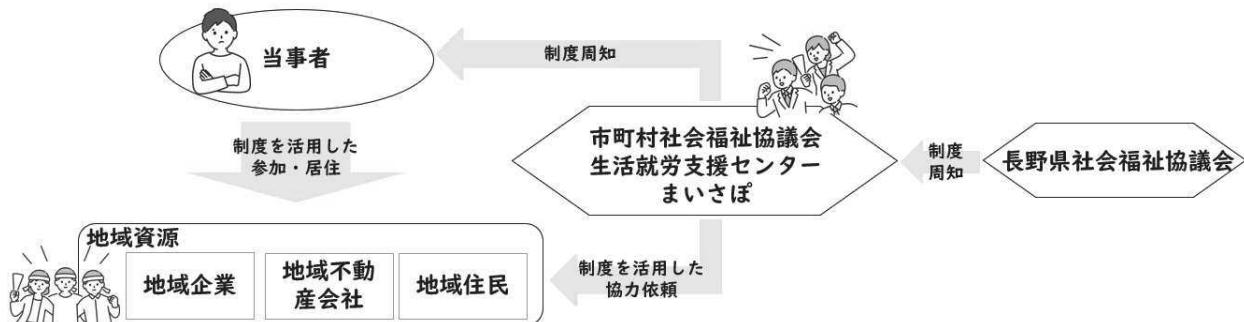


4. 「参加支援」の取組事例集 4-2. 「参加支援」の取組を行なっている団体の事例



長野県社会福祉協議会（長野県）

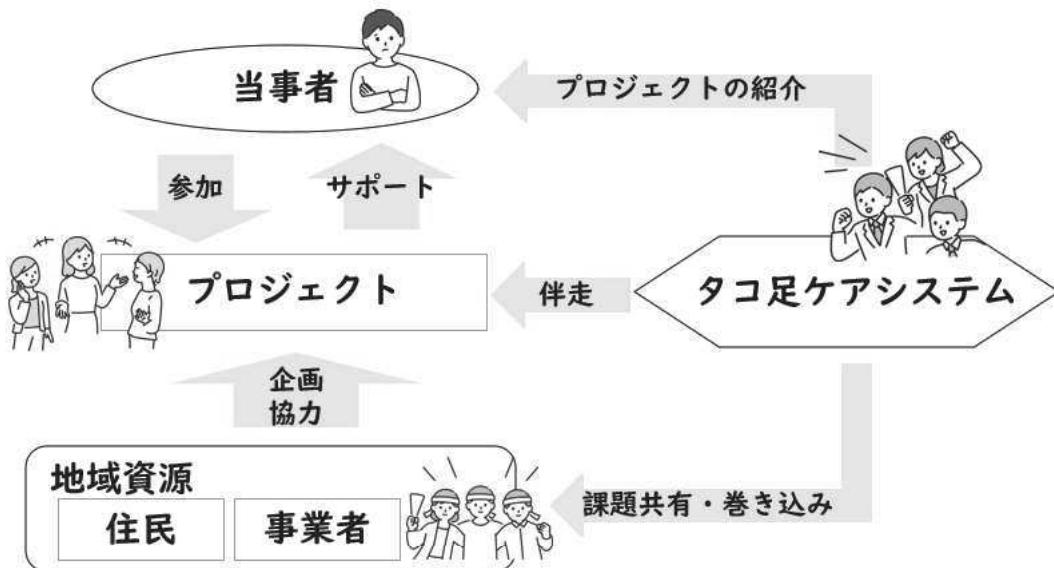


事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 県社会福祉協議会として以下事業を企画し、市町村社会福祉協議会や生活就労支援センター「まいさぽ」（生活困窮者自立支援事業実施先）に周知。 【プチバイト事業】 <ul style="list-style-type: none"> - 就労経験のないひきこもりの方などに向けて、地域の協力事業所で職場体験した当事者に対して、1時間800円（25時間・月2万円を上限）の給付を行い、職場体験をきっかけとして社会との関係をつなぎ直し、就労の機会を拓いていくことを目指す。 【入居保証・身元保証事業】 <ul style="list-style-type: none"> - 保証人がいないために住居確保や就労機会獲得ができない当事者に対して、滞納家賃及び原状回復費の保証、または就労先に与えた損害に対して見舞金を支給することで、保証人がいなくても住居確保や雇用につながることを目指す。 - 財源は市町村社会福祉協議会から拠出されており、日々の生活サポートも市町村社会福祉協議会が行なっている。 【生活改善支援事業】 <ul style="list-style-type: none"> - 地域住民との協働活動（例：ゴミ屋敷の片付け）などに対して上限1万円でかかった費用の送金を行うことで、地域の参加協力を得ながら個別の生活の課題の改善と地域社会とのつながりを目指す。
事業対象者 （「参加」のサポートを受ける対象者）	<ul style="list-style-type: none"> 主に生活困窮者の自立支援を行う生活就労支援センターの相談者で、支援プランなど事業利用を調整された方。
担い手となる地域資源	<ul style="list-style-type: none"> プチバイト事業：地域企業 入居保証・身元保証事業：地域不動産会社・大家、地域企業 生活改善支援事業：地域住民

4. 「参加支援」の取組事例集 4-2. 「参加支援」の取組を行なっている団体の事例

事業のポイント・特色	<p> 地域企業への開拓にあたっての工夫</p> <ul style="list-style-type: none">「プチバイト事業の受入先の開拓については、相談者のニーズに応じて、まいさぽから企業にアプローチをするほか、地元の障害者事業所や養護学校に相談し、就労支援に寛大な企業を紹介してもらうなど、地域の他の機関とも連携している。」 <p> 就労への丁寧なステップづくり</p> <ul style="list-style-type: none">いきなり一般就労を目指すのではなく、まずはプチバイトで職場体験をしてからステップアップしていくよう計画を立てるが、時にはプチバイトの前段として相談事業所内の作業等をボランティアとして行ってもらい、社会の場に慣れてくれることから始める。生活リズムが出来てきて、本人から他の仕事体験をしたいという話が出たところでプチバイト事業をすすめることもある。」 <p> 社会福祉法人からの協賛金を活用した財源確保</p> <ul style="list-style-type: none">「プチバイト事業の財源は、社会福祉法人経営者協議会の会員法人からの協賛金。地域公益活動としてこの事業を実施している。」
------------	---

タコ足ケアシステム(千葉県多古町)

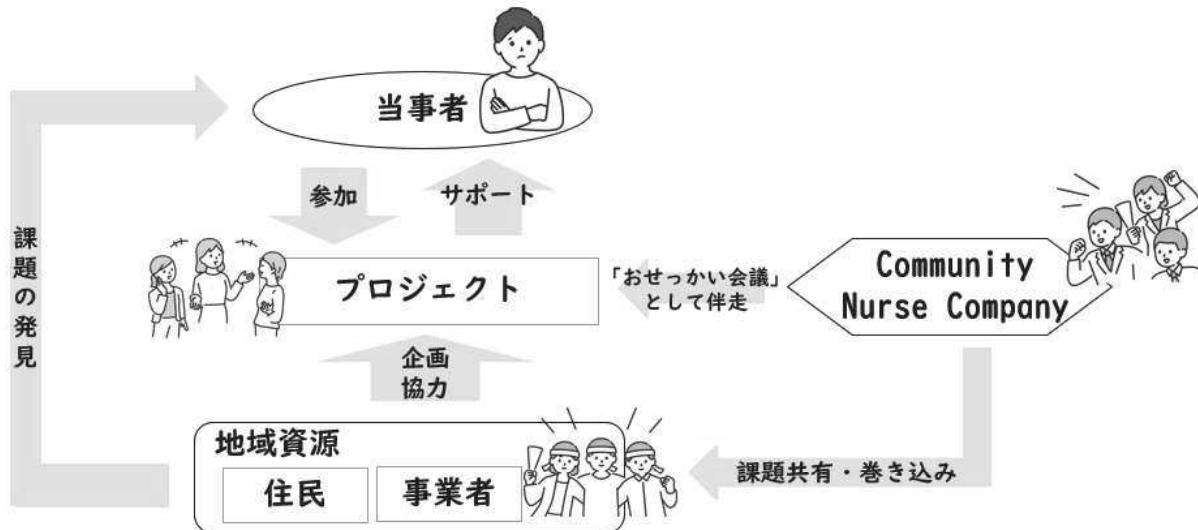


事業概要	<ul style="list-style-type: none"> • 福祉専門職、町役場の職員、商店街の事業者が主体となって、様々な地域活動を企画したり、手伝ったりする地域コミュニティ。 • 過去企画したイベント例は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> • バナナジュースプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> - 夫が亡くなったことをきっかけに、気持ちがふさぎこんでいた高齢女性について、タコ足ケアシステムメンバーの町役場職員に相談が来た。 - デイサービスの利用も検討したが、「本人が今まで大切にしてきたこと、得意なことを活かして何かやってみる」という考え方から、昔営んでいた喫茶店で作っていたバナナジュースを作る、というイベントを企画して、たくさんの地域の人たちに集まってもらい、本人がバナナジュースをふるまつた。 - 回を重ねるごとに本人が少しずつ元気を取りもどし、今も介護保険サービスなどを利用せずに地域で元気に過ごしている。 • 駄菓子屋たこのつぼ <ul style="list-style-type: none"> - 障害児デイサービスの横のコミュニティスペースで、デイサービスに子どもを預けている母親が中心になり、駄菓子屋を始めた。その中の出会いから、福祉的なつながりも生まれた。 • タコ足ケアランチ <ul style="list-style-type: none"> - 商店街の常設サロンでの高齢者の集まりに、タコ足ケアシステムのメンバーも参加した。サロンでの出会いから、まちで会った時に声をかけ合う仲に。福祉専門職が地域住民との関わりを持つ後押しになった。
-------------	--

4. 「参加支援」の取組事例集 4-2. 「参加支援」の取組を行なっている団体の事例

	<ul style="list-style-type: none"> ・ すまいるせんべいプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> - 障害を持っているが、障害特性を理由にサービスに通えない方もいる。行動障害があって、外に出るのも怖がっていた方がいたが、「ちょっとでかけてみる」外出先として町のせいべい屋さんに出かけてみたところ、せんべい焼き体験が本人のやりたいことと重なり、楽しんで体験を行うことができた。 ・ タコ足ケアシステム総会 <ul style="list-style-type: none"> - 地域外の実践者なども呼んで、住民皆で集まる会を実施。
事業対象者 (「参加」のサポートを受ける対象者)	<ul style="list-style-type: none"> ● 特に限定なし
担い手となる地域資源	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民 ● 地域事業者
事業のポイント・特色	<p> ゆるく楽しいコミュニティづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「住民の主体性に委ねて、「楽しく」をモットーにしている。例えば、「駄菓子屋たこのつぼ」の企画も、当初は真面目な企画（障害児のライフサポートファイルを書く、など）を想定していたが、それだけじゃ楽しくないだろうという話になり、駄菓子屋を行うことになった。そちらの方が、本人たちがやりたいことなので、よかったです。」 ・ 「何かを始める際には「効果」や「結果」は考えすぎず、最初から目標を立てすぎない。参加できる人だけがやる、として、義務感を出さない。」 <p> 排他的なコミュニティにしない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「住民活動の場所を転々とする。イベントの場所を固定してしまうと、それによって排他性が生まれてしまい、参加のハードルが上がってしまう人もいるので。」 <p> 地域外との接点づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「多古町は人口が少ないこともあります、地域の中だけの資源を活用するとなると限界があるので、地域外の人を呼んで、講話をしていただけたり、地域の中を見てもらう機会を作っている。結果、町の中に新しい風が入り、担い手のモチベーションが上がることもあった。」

Community Nurse Company・地域おせっかい会議（島根県雲南市）



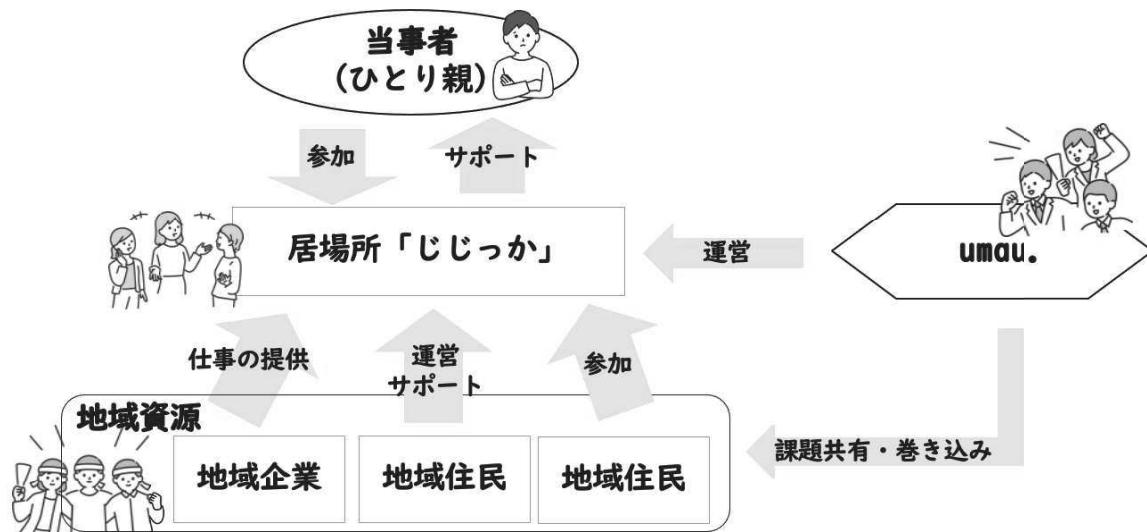
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回、地域の課題に「おせっかい」を焼きたい住民が集まり、その一歩が踏み出せるよう、会議の参加者でアイディアを出したり、仲間を作ったり、人と人をつなげたりする話し合いを開催。 事務局は、話し合いを企画するだけでなく、おせっかい会議で生まれた住民発のプロジェクトに実施まで伴走。 具体的な「おせっかい」事例は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> 地域の郵便局発の「まちの保健室」 難病を持つ方への買い物サポート
事業対象者 （「参加」のサポートを受ける対象者）	<ul style="list-style-type: none"> 特に限定なし。住民・事業者から寄せられる課題を元に対象者を決めていく。
担い手となる地域資源	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民 地域事業者
事業のポイント・特色	<p> 地域住民を巻き込んでいく工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 「住民側がどのような思いで活動てきて、今後どうすることをやりたいのか、それはなぜ今実現されていないのか、ということを聞いていき、肯定する。似た活動をしている人がいる場合には、イベントなどの紹介も合わせて行う」 <p> 地域事業者を巻き込んでいく工夫</p>

4. 「参加支援」の取組事例集 4-2. 「参加支援」の取組を行なっている団体の事例

	<ul style="list-style-type: none">・ 「福祉や地域の言葉で付き合いにいかないこと。例えば、郵便局では「地域の人」を「お客様」と言っているので、それに合わせて説明する、など」 <p> 事業評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「事例ごとのプロセス変化について、共通化できるプロセスを探し出し、そこに KPI を置く。例えば、「1 年に 4 回くらいは接点を持ち続けることができたか」「当事者本人が主体的に参加したいという言動をとったか」など。」
--	--

4.「参加支援」の取組事例集 4-2.「参加支援」の取組を行なっている団体の事例

一般社団法人 umau.(福岡県久留米市・ひとり親支援)

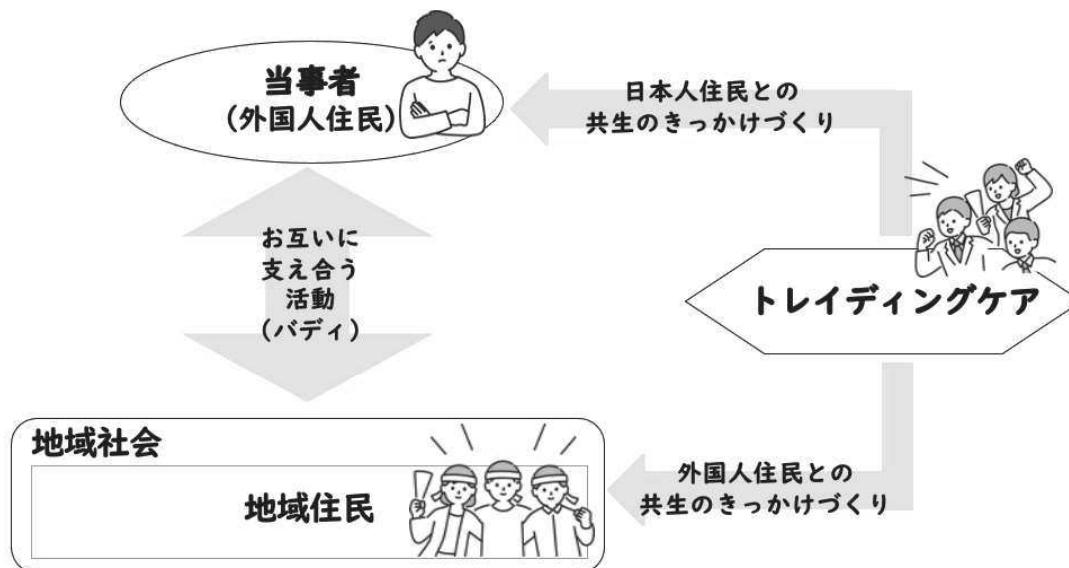


事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ひとり親が気軽に集まることのできる居場所「じじっか」を運営し、そこで以下のようないくつもプログラムを実施。 ・親子食堂：地域の農家や居酒屋からいただいた食材で毎週70～80食分の食堂を開催。 ・じじっかパーク：「じじっか」の横にある倉庫を改装して、親子が今まで体験できなかった体験活動を行う。 ・じじっかファミリープログラム：食事を1つのキッチンで作って分け合ったり、子供の送り迎えもお金を発生させずにできる関係性を作ったり、近場の企業から仕事を受けてできる人たちで受託したりなど、お互いが持っているものをシェアすることで、仲間を増やし孤立感をなくしていくプログラム。

4. 「参加支援」の取組事例集 4-2. 「参加支援」の取組を行なっている団体の事例

事業対象者 (「参加」のサポートを受ける対象者)	<ul style="list-style-type: none"> ● ひとり親世帯 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「行政の対応時間の制限が当事者にとっての不満につながり、相談できないことがあり、孤立化しているひとり親もいる。」
担い手となる地域資源	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民 ● 地域企業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状は運営メンバーの知り合いの企業に仕事の提供をお願いしている。「じじっか」がある場所が工業地帯ということもあり、近隣の会社にも仕事の発注を依頼していく予定。
事業のポイント・特色	 ひとり親以外の住民巻き込み <ul style="list-style-type: none"> ・ 「閉塞感を生まないよう、様々なイベントで出会った多様なバックグラウンドを持つ方に遊びにきてもらったり、スタッフになってもらったりしている。具体的には、独身移住者・学生・ふたり親だが障害児を持った家族、など。」  福祉以外のイベントへの参加 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ひとり親支援を行なっているが、別に移住促進などの地域振興支援イベントなどにも顔を出しており、そこで顔見知りになった人に、活動を手伝ってくれないか依頼している。」  当事者を支援者にする <ul style="list-style-type: none"> ・ 「じじっかパークでの体験活動の講師は、通常は支援される側である当事者に、支援者側にもなりうることを実感してもらい、自立を促すという目的で、じじっかにて支援を受けているひとり親に担ってもらう想定。」  スタッフ間でのアプローチ方法の話し合い <ul style="list-style-type: none"> ・ 「課題がある子どもや親に対しては、問題の解決の仕方をスタッフ間で出し合う会議を月に1回行っている。」

公益社団法人トレイディングケア（愛知県高浜市・外国人共生）

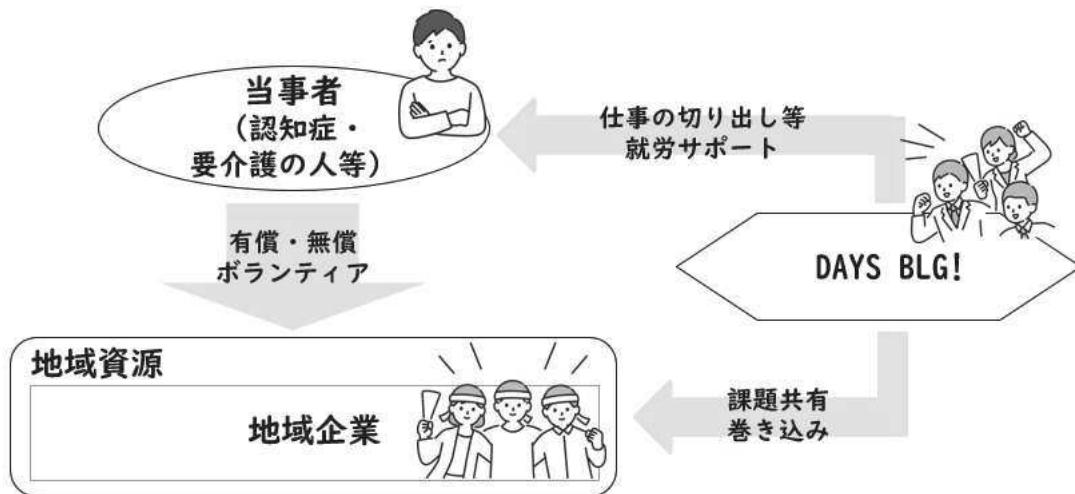


事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 地域の外国人が地域社会と共生する多文化共生社会の実現を目指し、愛知県高浜市にて、敷居の低く、外国人住民が気軽に立ち寄れる場所として、多文化共生コミュニティセンターを運営している。 外国人住民と日本人住民がお互いに支え合う活動（※トレイディングケアでは「バディ」と呼ぶ）に関する日本人住民への啓発 その中で、以下のような取組を実施。 <ul style="list-style-type: none"> 総合計画策定の話し合いを行う高浜市市民会議への外国人を連れての参加 地域の日本人の子どもとペアを組んでまちを歩くウォーカラリー開催 多文化共生コミュニティセンターでの日本語教室・多文化子育てサロンの実施（高浜市からの委託事業）
事業対象者 （「参加」のサポートを受ける対象者）	<ul style="list-style-type: none"> 地域の外国人住民 もしくは地域の外国人の人 <ul style="list-style-type: none"> 「高浜市には、外国人住民が多くその割合は8%ほどと、人口に占める外国人比率が高いにもかかわらず、日本人コミュニティとの接点は薄い。そのため、地域の外国の人は行政に相談するまでもないちょっとした生活の困りごと（子どもの宿題を教えることができない・病院の行き方がわからない、など）を抱えていることが多い。このような小さな困りごとが解決されない結果、行政に相談にくるころには、解決が難しくなってしまうケースも多い。」
担い手となる地域資源	<ul style="list-style-type: none"> バディをする気持ちのある地域住民（日本人）
事業のポイント・特色	 地域にある資源やモノ、情報を用いたコーディネート

4. 「参加支援」の取組事例集 4-2. 「参加支援」の取組を行なっている団体の事例

	<ul style="list-style-type: none">・「地域の特色を活かすため、地域イベントやお祭りに外国人住民と参加するなど、地域にある資源やモノ、情報を用いて人と人をつないでいく。外国人住民の意見も聞きながら、新たな地域のかたちを作っていく。地域の資源や人と外国人住民がつながることで、地域に新たな共生社会が誕生する。」
	<p> ゆるやかなつながり・楽しい活動づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・「地域住民と外国人住民はゆるくつながることが大事。基本的に口コミでイベントなどは周知している。参加も強制せず、正式な出席者リストなどは作っていない。無理なく、自分のできることを続けることが大切。参加者は楽しいから参加をする。」・「昔は、日本人一人に対して外国人一人を結びつけるバディシステムをつくっていたが、日本人側の対応に差がでたり、してあげた、という気持ちが前面に出すぎたりといった問題があったため、今ではゆるく日本人コミュニティと外国人コミュニティを結びつけることを重視している。まちで声を掛け合える人が増えることが大事。」

特定非営利活動法人 町田市つながりの開 DAYS BLG!（東京都町田市 認知症・要介護の人等の社会参加）



事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 東京都町田市で地域密着型の小規模デイサービスを運営。 認知症のある（中等度の方がが多い）人、高次脳機能障害や精神疾患、または加齢による機能低下がある人など、生活に障害のある人など、生活に障害のあるメンバー（当事業所では、利用者をともに過ごす仲間だと考え「メンバー」と呼ぶ）が、有償・無償のボランティアを行い、社会との接点を維持するプログラムを展開している。ボランティアの内容例としては、近隣のカーディーラーでの洗車作業や、公園のベンチ拭きなどがある。
事業対象者 （「参加」のサポートを受ける対象者）	<ul style="list-style-type: none"> 認知症のある人、高次脳機能障害や精神疾患、または加齢による機能低下がある人など、生活に障害のある人 「認知症・要介護の人等への『ケア』サービスはデイサービスなどで行われているが、当事者が『社会参画』できる場は少ない。」
担い手となる地域資源	<ul style="list-style-type: none"> 地域企業
事業のポイント・特色	<p>【事業全体の工夫】</p> <p>💡 仕事の細分化・切り出しによる、当事者へのフォロー</p> <ul style="list-style-type: none"> 「各作業によって、複数の行程がある。（洗車の例だと、洗う車を認識する、蛇口へホースを引っ張る、蛇口をひねる、雑巾を持ってくる、車に水をかける、雑巾で拭く…など。）1つの作業工程を一人でやろうとすると難しいが、分業してできるところを行うよう、にすると全体の作業も完了することができる。作業の分け方が、職員の腕の見せ所だと思っている。」

	<p> 支援する側、される側という概念を取り扱った、持ちつ持たれつの場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 「デイサービス事業所ではあるが、通てくる方々を『利用者さん』ではなく、『メンバー』と呼んでいる。またお茶を『お出しする』のではなく、お互いにお茶を入れあえる関係性を目指している。」 <p>【地域企業へのボランティア依頼・有償化の工夫】</p> <p> 当事者とともに出向く</p> <ul style="list-style-type: none"> 「近隣の自動車販売店にて当事者が洗車作業を行う有償ボランティアの場合には、その実現までは、メンバーと一緒に自動車販売店に通うことで、「本当に洗車ができるのか」という不安を解消し、誤解を解いていった。」 <p> 経営的なメリット提示</p> <ul style="list-style-type: none"> 「作業に対する有償化の話し合いでは、メンバー（当事者）が働いた結果、自動車販売店側の職員にとってどのくらいの作業時間がカットできるのか、といったところからメリットを訴求し、有償化につなげた。」 <p>【当事者のボランティア参加へのモチベーションを向上させる工夫】</p> <p> 仲のいい人・仲間からの誘い</p> <ul style="list-style-type: none"> 「はらくことは手段であり、目的は、そこに仲間がいる、仲間とともに活動することにある。“仲間が集う場”ができると、『この人がやるなら自分もやりたい』というように、仲間と一緒に活動に参加するというモチベーションが加わる。仲間から参加を呼びかけることもある。」 <p> 主体はあくまでも当事者</p> <ul style="list-style-type: none"> 「メンバーとともにを行う活動を考えるときには、職員メインで考えるのではなく、メンバーとともに地域企業との話し合いの場などに参加し、『仕事を取ってくる』段階からメンバーが関わる。そうすることで、当事者性が生まれ、活動が継続しやすくなる。」 <p> 複数人で作業を行う</p>
--	--

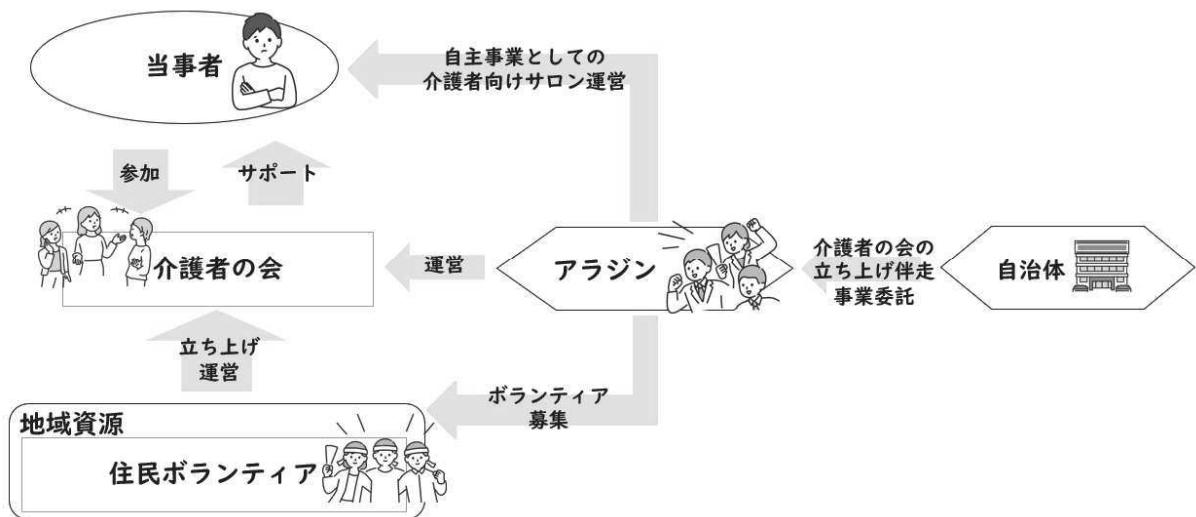
4. 「参加支援」の取組事例集 4-2. 「参加支援」の取組を行なっている団体の事例

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 「『皆で一緒に活動を行った』という体験が、当事者の QOL 向上につながることもあるので、なるべく共同作業ができるような体験設計にしている。」 |
|--|---|

 無理をしない

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 「やる気が出ない時は無理に活動をしない。」 |
|--|---|

NPO 法人介護者サポートネットワークセンター・アラジン（東京都 杉並区他・ 介護者支援）



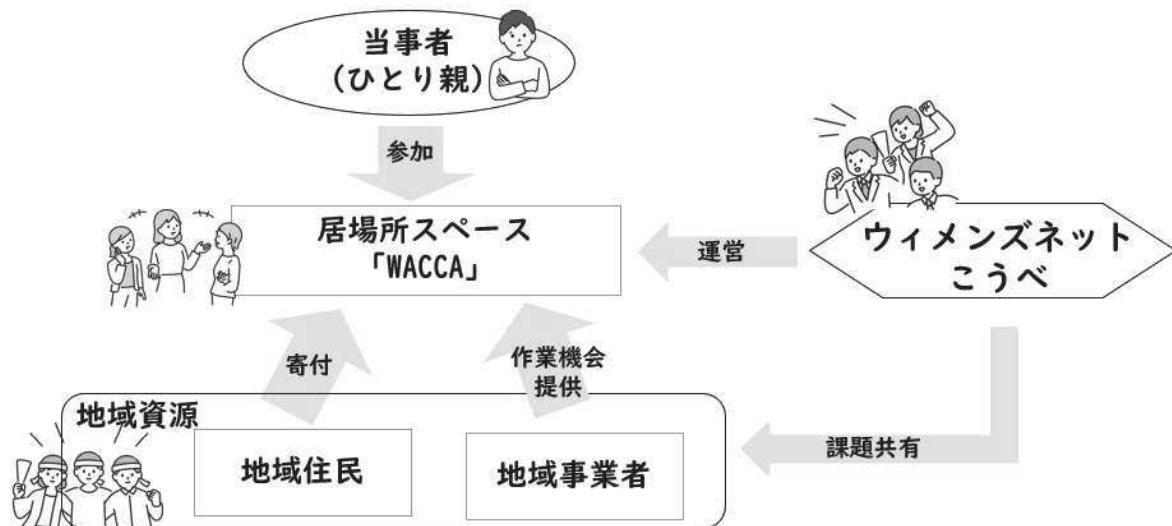
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 地域で孤立しがちな介護者を支援する仕組みをつくるため、以下事業を展開している。 自主事業：実の親を介護している娘・息子のためのサロン開催（「娘サロン・息子サロン」） 行政からの委託事業：住民ボランティア主体の介護者の会の地域での立ち上げ サロンや介護者の会では、ピアカウンセリングを本質に、参加者同士で語り合い、聴きあう、参加者同士の共感を重視している。 行政からの委託事業における、介護者の会の立ち上げでは、アラジンが会の運営をしつつ、地域住民ボランティアの育成を行なっている。参加者（介護者）と支援者（住民ボランティア）を同時に立ち上げるところは珍しいが、介護者の孤立を解決するためには「地域でつながることが大事」という理念から、この形式をとっている。
事業対象者 (「参加」のサポートを受ける対象者)	<ul style="list-style-type: none"> 介護者 <ul style="list-style-type: none"> 「介護のイメージが身体的なものに寄っている（車椅子を押す、おむつをかえる、など）からか、身体的介護の必要がない認知症の方を介護している場合、『介護者』という自覚を持っていないケースが多く、本人からの SOS をつかむことが難しい。また、親を介護している上に、子どもに障害特性があったり、ひきこもりであったりと、家族として多重的な問題を抱える介護者も多い。」
担い手となる地域資源	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民（ボランティアとして）

4. 「参加支援」の取組事例集 4-2. 「参加支援」の取組を行なっている団体の事例

事業のポイント・特色	<p> ボランティア募集時の人の見極め</p> <ul style="list-style-type: none">「自分の『知識』を使って、誰かに教えたい、という人は、話を聞いてほしいという当事者のニーズに対して、ノウハウを教えてしまうというような、ニーズのミスマッチが起こるので、見極めは慎重にしている。」 <p> 介護者の会での、場の設計工夫</p> <ul style="list-style-type: none">「当事者に『寄り添う』ことが基本であるピアカウンセリングであるため、参加者同士の場の空気を壊さない、無理やり誘導しない、アドバイスしない、といった最低限のルールを用意している。」
------------	--

認定 NPO 法人 女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ WACCA

(兵庫県神戸市・DV 被害者、性被害者支援)

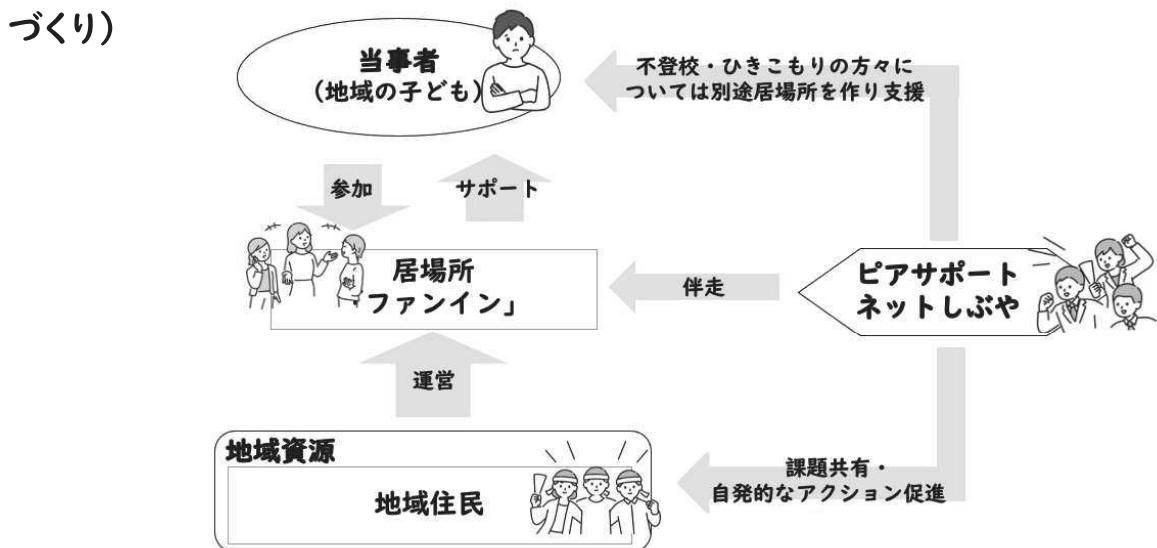


事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 神戸市にて困難を抱えた女性の孤独感を解消する居場所を運営。 <ul style="list-style-type: none"> 以下のようなプログラムを運営 <ul style="list-style-type: none"> ひとり親交流のための居場所 ひとり親世帯に対するフードパンtries ひとり親世帯の子どもに対する学習支援 性犯罪被害を受けた女性に対する当事者会 近隣住民とも良好な関係を作っており、食料品や衣料品の寄付をしていただいたり、自立機会として作業の場を提供いただいたりしている。
事業対象者 （「参加」のサポートを受ける対象者）	<ul style="list-style-type: none"> 困難を抱えた女性 <ul style="list-style-type: none"> ひとり親 DV 被害者 性犯罪被害者
担い手となる地域資源	居場所拠点の近隣の地域住民・地域事業者
事業のポイント・特色	<ul style="list-style-type: none"> 地域の中心部への拠点設置 <ul style="list-style-type: none"> 「DV 支援はこれまで匿名性を高めるために、地域に入ることはしてこなかったが、新しく商店街の真ん中に拠点を作った。これを機に、地域の方々に挨拶していく中で、地域が理解を示してくれるようになり、クラウドファンディングを応援してくれたり、ひとり親の困窮世帯に向けてお米を送ったりしてくれるようになった。地域の人たちも、その

4. 「参加支援」の取組事例集 4-2. 「参加支援」の取組を行なっている団体の事例

	<p>のような支援に关心があつたものの、今まで動き方がわからなかつたと言っていた。」</p> <ul style="list-style-type: none">● 拠点づくりに関する当事者の巻き込み<ul style="list-style-type: none">・「団体の新たな拠点作りに際して、引きこもっている人にも引越し作業を手伝ってもらった。自主的に動いてもらうことで、また手伝いに来ますよ、というコメントをもらった。」
--	--

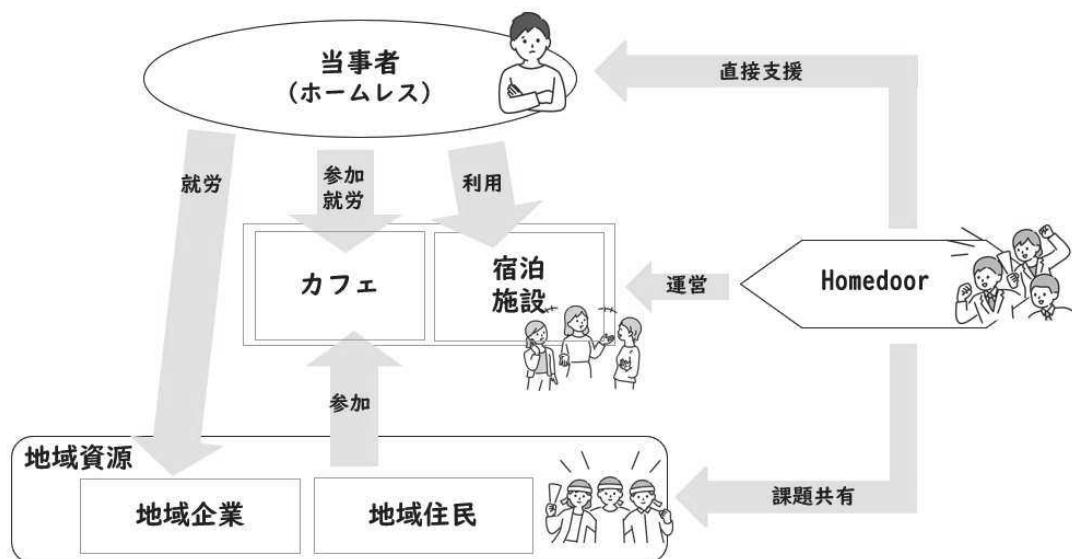
NPO 法人 ピアサポートネットしぶや（東京都渋谷区・子ども、若者等の居場所づくり）



事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 地域の子どもたちの孤立を解決するため、子どもの居場所事業の立ち上げ・運営支援を行なっている。 あらゆる子どもが訪れるこことできる拠点「ファンイン（中国語で「歓迎」の意）」を地域の複数の地区にて運営。 常駐する運営メンバーは、地域住民。ピアサポートネットしぶやはその支援（運営の相談や財政面のアドバイスなど）を行なっている。 ピアサポートネットしぶやが主体となり、不登校・ひきこもりの方々に特化した居場所づくりを行なっている。
事業対象者 （「参加」のサポートを受ける対象者）	<ul style="list-style-type: none"> 地域での居場所拠点立ち上げ支援・運営：孤独孤立を抱えた子ども（不登校・ひきこもりに限らない） 居場所運営：不登校・ひきこもりの方々（小学生～64歳）
担い手となる地域資源	<ul style="list-style-type: none"> 地域での居場所を運営する地域住民 <ul style="list-style-type: none"> 担い手が多様でないと、受け入れられない子どもが出てきてしまう、との思いから、あえて地域住民主体で運営してもらうようにしている。
事業のポイント・特色	<p>【地域住民の巻き込み方】</p> <p>💡 PTAへの呼びかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「最初に地域住民に居場所づくりの話をするときには、中学校単位で渋谷区の8校のPTAに呼びかけた。」 <p>💡 場所の決定を最初にする</p> <ul style="list-style-type: none"> 「居場所づくりの話し合いで、場所の決定を最初にする。そうすることで、具体的な取り組みにつながる。」

	<p>【継続的な運営の工夫】</p> <p> 運営メンバーである住民への謝金支払い</p> <ul style="list-style-type: none">「運営メンバーのモチベーションを維持するため、文科省の補助事業などを使って、完全無給ではなく、少しだけでも関わってくれた人に謝金を支払える形式をとっている。」 <p> 運営メンバーも含めた変化の記録</p> <ul style="list-style-type: none">「スタッフ自身の主体的な気づきを促すため、子どもに直接関わるスタッフ（「ピアソポーター」）には、ケースの記録を書く際に、関わった子どもだけでなく、自分の気持ちがどう変わったかの記録もつけてもらっている。それを見ながら別のスタッフから意見をもらうなど、話し合う時間を設けている。」
--	---

認定 NPO 法人 Homedoar(大阪府大阪市・ホームレス支援)



事業概要	<p>誰もが何度もやり直せる社会をつくっていくために、ホームレス支援を行なっている。「参加支援」としては以下事業を展開。</p> <ul style="list-style-type: none"> 就労支援 <ul style="list-style-type: none"> シェアサイクル「HUBchari」: ホームレスの方にシェアサイクルで使用している電動自転車のバッテリー交換を行ってもらうことで、ホームレス向けの仕事を生み出す自主事業 職業紹介: 地域企業との求人マッチング カフェ運営: ホームレスの方への食事提供の場・就労支援としての場(ホームレスの方にも運営を手伝っていただく)として、地域の方も気軽に使えるカフェを運営。 宿泊施設運営: ホームレスの方への宿泊場所の提供。18部屋の個室をそなえた宿泊施設を運営。原則2週間無料で利用可能。
事業対象者 （「参加」のサポートを受ける対象者）	<ul style="list-style-type: none"> ホームレスの方 <ul style="list-style-type: none"> 行政が運営しているシェルターは大部屋のものが多く、ゆっくり一人で休みたい、コロナ禍のなかで不安があるという理由で避けられる方もいる。 「ホームレスの方への公的な就労支援となるとハローワークが挙げられるが、ホームレスの方の中には、相談しづらい、敷居が高い、という理由で利用しない方も多い。」
担い手となる地域資源	<ul style="list-style-type: none"> 地域企業(就労先として) 地域住民(カフェにいらっしゃる方)

4. 「参加支援」の取組事例集 4-2. 「参加支援」の取組を行なっている団体の事例

事業のポイント・特色	 地域にひらけた居場所の設置 <ul style="list-style-type: none">「カフェに本や報告書を置いたりして、自然な雰囲気の中でちょっとホームレス問題を知れるような場所にしている。将来的には、「生活保護」などテーマを設定して、ランチを食べよう、といったイベントを企画したいと思っている。  (地域企業との連携工夫)経営的なメリット提示 <ul style="list-style-type: none">「ホームレスの居住支援のため、不動産会社と連携をしている。生活保護の受給者は、家賃収入の安定化につながるので、それをメリットに感じ協力してくださる方も一部おられる。」
------------	---

特定非営利活動法人あしたばの会（東京都調布市・病気療養者支援）

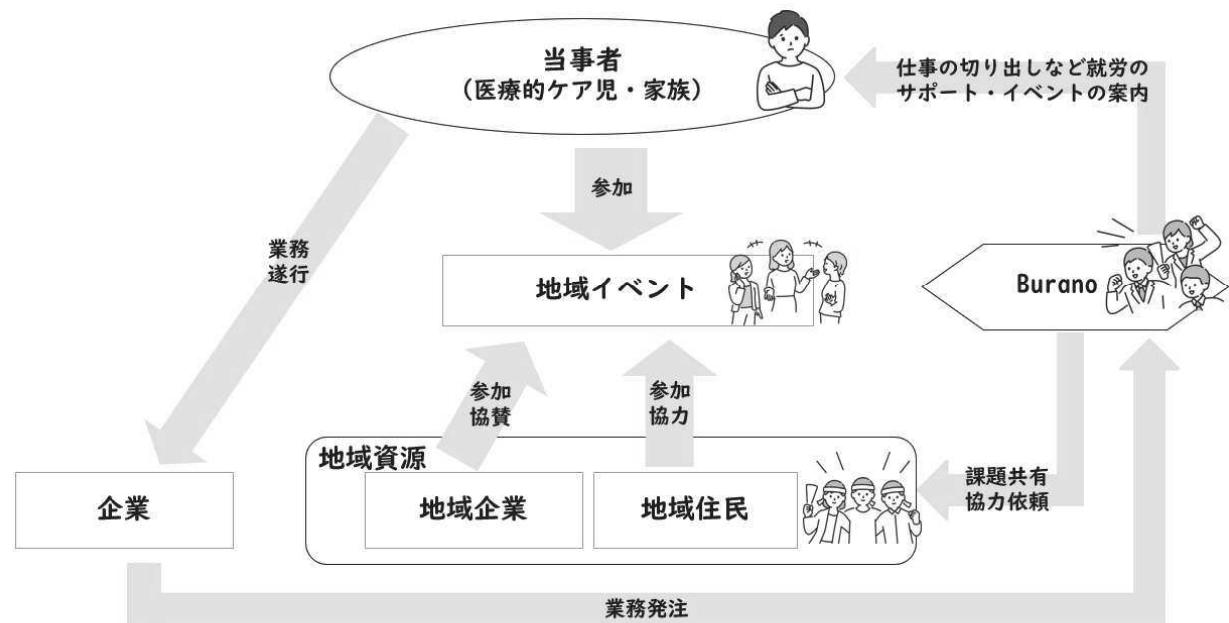


事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 病気療養中の生活から社会復帰(就労)までのサポートを行う。 病気療養している方の再就職に関する相談支援 病気療養から再就職を目指すきっかけとなるような、低負荷な仕事の提供 <ul style="list-style-type: none"> あしたばの会で、企業から仕事を受け、それを細分化して、当事者の方に業務を渡す。 あしたばの会で、当事者からいただいた納品物の品質をチェックした上で納品。 当事者の方が仕事をしていく体力と自信がついてきたら、直接雇用してもらえる企業を探すお手伝いをする。場合によっては、非正規就業を避けるために、一時的にあしづばの会で採用し、あしづばの会から出向という形を経由する仕組みも用意する。
事業対象者 (「参加」のサポートを受ける対象者)	<ul style="list-style-type: none"> 病気療養者 <ul style="list-style-type: none"> 「病気療養中であれば傷病手当金がもらえるが、再就職後1年内に離職した場合にはもらえない仕組みになっているため、再就職はかなり大きなハードルとなる。病気の理解をした上で、少しずつ仕事に戻っていく支援は現状あまりない。」
担い手となる地域資源	<ul style="list-style-type: none"> 企業（業務受託先として） <ul style="list-style-type: none"> 業務はオンラインで完了できるような業務を、全国の企業から業務を委託している。
事業のポイント・特色	<p> 仕事の細分化・無理ない範囲での仕事開始</p> <ul style="list-style-type: none"> 「受注する仕事は、会議の文字起こしなどが多い。当事者の方ができると思う仕事分量より少なく始めていくことがポイント。普通の文字起こしだと、60分程度の録音を委託することが多いと思うが、病気

4. 「参加支援」の取組事例集 4-2. 「参加支援」の取組を行なっている団体の事例

	<p>療養中の当事者にお願いするときは、まず 15 分の文字起こしから お願いする。」</p> <p> 企業への営業方法</p> <ul style="list-style-type: none">「社会貢献文脈に頼りすぎずに、一法人としてしっかりとした品質のものを必ず約束の期限を守って納品をすることをアピールしている。企業側としては、若干市場価格より安いことと、品質が劣るわけではないこと、それに加えて社会貢献に繋がる、という 3 点から発注してくれている。」
--	---

一般社団法人 Burano(茨城県古河市)

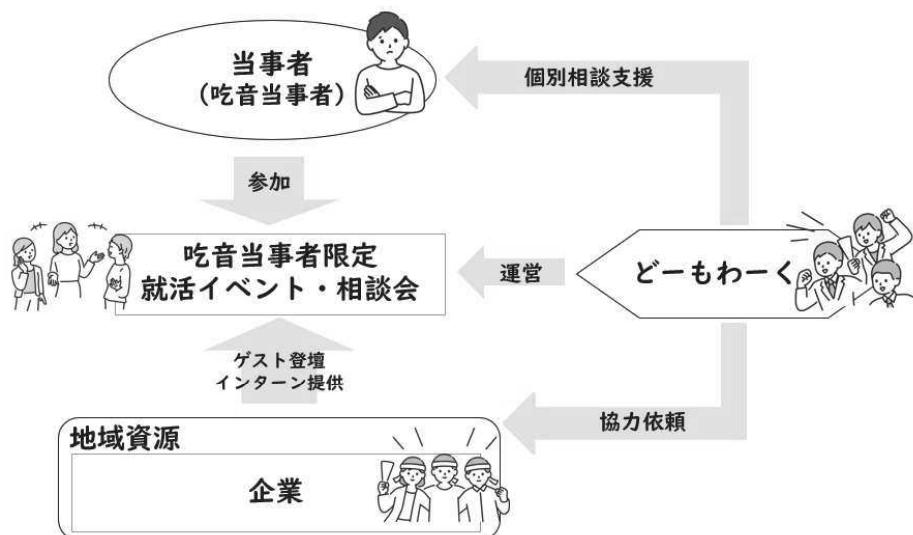


事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア児・重度障害児向けの多機能デイサービスを展開。「参加支援」としては以下事業を展開。 <ul style="list-style-type: none"> 親の働く場の提供事業「kikka」: デイサービスに付設するコワーキングスペースにて、子どもの面倒を見ながら複数人で働けるクラウドソーシング(文字起こしや名刺情報入力)の仕事を受託 地域イベント事業: 障害の有無に関わらず地域の子どもが楽しめるキッズフェスを地域で開催
事業対象者 （「参加」のサポートを受ける対象者）	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア児・家族 <ul style="list-style-type: none"> 「医療的ケア児の家族(特に母親)は、母親の就労の悩み・きょうだいの育児の悩み、など、様々な課題を抱えているが、それを気軽に相談できるコミュニティなどはあまりない。」
担い手となる地域資源	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民 地域企業 業務を発注する企業
事業のポイント・特色	<p>💡 学校起点の地域の巻き込み</p> <ul style="list-style-type: none"> 「福祉イベントの広報を企画した際には、学校関係では教育委員会だけではなく、校長会や教頭会、教務主任会までイベントの趣旨や重要性を説明して、確実に保護者に広報が届くようにした。結果、その影響もあって、PTAや青年会議所、消防団、特別支援学級の先生など、すごい数のボランティアが集まった。」

4. 「参加支援」の取組事例集 4-2. 「参加支援」の取組を行なっている団体の事例

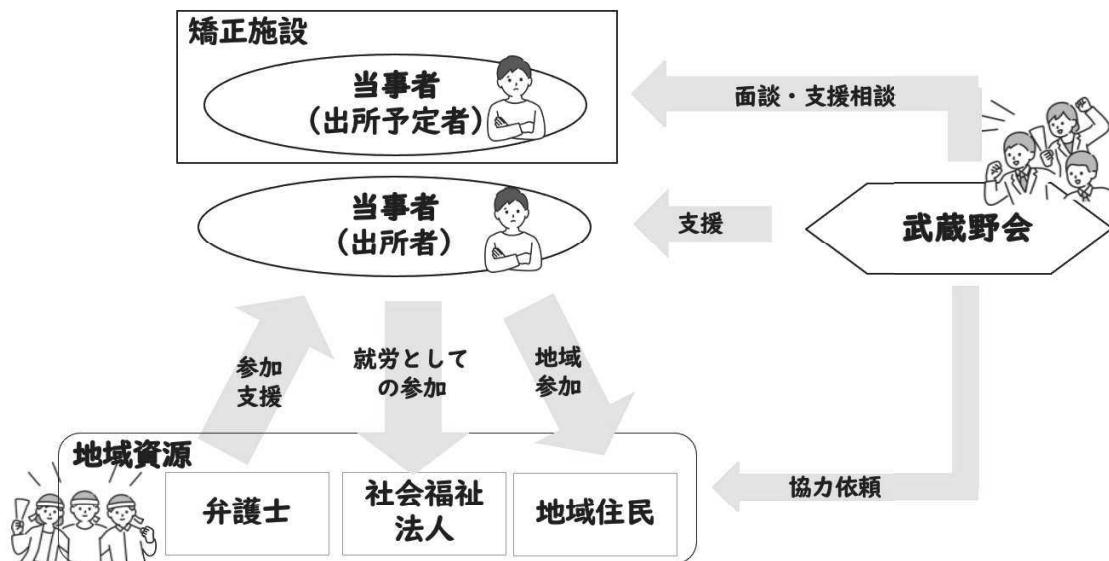
	 、当事者のみのコミュニティにしない <ul style="list-style-type: none">「母親の働く場については、当初は、対象をデイサービスの利用者（障害児の母親）に絞っていたが、そのようなコミュニティは排他的なではという話になり、今では健常児の親も対象にしている。」
--	--

NPO 法人 どーもわーく(愛知県名古屋市・吃音当事者の就労支援)



事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 吃音をお持ちの方の QOL の向上を目指し、就労支援などを行なっている。 当事者向け面接練習会、就活相談会（少人数） 吃音を持った社長の講話や、人事担当者から見た就活のポイント講座など、外部の企業関係者をゲストにしたイベント 自治体委託事業としての、地域企業インターンイベントの開催
事業対象者 (「参加」のサポートを受ける対象者)	<ul style="list-style-type: none"> 吃音を持った方（特に就活生） 「吃音は、特に就職活動時など人生で大事な時期に影響するものであるにも関わらず、支援制度や活動は少ない。」
担い手となる地域資源	企業（地域は限定せず）
事業のポイント・特色	<p> 吃音に関する丁寧な説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 「どーもわーくに訪れる人は、自分の話しづらさに違和感を感じながらも、今まで他の吃音の人と会ったことがなく、その特性について詳細を知らない人も多い。そのため、面接練習会でも、吃音とは何か、どのような特性なのか、吃音を持つ人はどのような生活をしているのか、という点から丁寧に説明している。いきなり面接練習に行くよりは、そのような「寄り添い」から始める方が、当事者との信頼形成にも良いと思っている。」

社会福祉法人武蔵野会（東京都 八王子市他）（出所者・触法障害者支援）



事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 児童養護施設、特別養護老人ホーム、障害児・者支援施設等の運営を行う「福祉事業」と、法人成年後見事業の支援、HIV療養者福祉施設受入支援等、生きづらさを抱えた人々を支援するネットワークづくり等「地域公益事業」を行っている。 その中で出所者・触法障害者の支援についてヒアリングを実施した。支援として行っている主なことは以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> 矯正施設に入所している段階からの面談 出所後の住居支援、就労支援 人的支援:その地域のコミュニティ等につなぎ、その地域で暮らしあくなるようにサポート
事業対象者 （「参加」のサポートを受ける対象者）	<ul style="list-style-type: none"> 矯正施設にいる障害を持っている方 <ul style="list-style-type: none"> 「東京都の場合、出所前に、出所後のことと考えて生活保護の手続きをしたり、障害者手帳を取得したりということが出来ず、出所後に何かしらの援助・支援が受けられない場合は、服役中の僅かな工賃だけが手元にある状態での出所になり、どうしても「再犯」しやすい状況になっていて、累犯につながってしまっている。」 罪を犯して留置されている障害者の方 障害者で、矯正施設を経て、現在精神病院に入院している方
担い手となる地域資源	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民、保護司、社会福祉法人、社会福祉士会 弁護士 矯正施設
事業のポイント・特色	💡 矯正施設に入所している段階からの支援開始

4. 「参加支援」の取組事例集 4-2. 「参加支援」の取組を行なっている団体の事例

	<ul style="list-style-type: none">「まず会うことからスタートする必要があるので、本人の意思確認や説明のためにも矯正施設に入所している段階から面談を行っていく。もともとの生活の様子等の話を聞き、理解し、疎遠になっていた以前の人間関係をつなぎ直したりもする。とにかくじっくり向き合って付き合っていくことが必要となる。」
	<p> 地域住民や弁護士等を巻き込んで総合的な支援ネットワークづくり</p> <ul style="list-style-type: none">「行政手続きをするときのトラブル等を避けるため、弁護士とも連携して動けるような体制にしている。本人がその地域で暮らしやすくするために、生活に必要な、例えばスーパーや美容院のようなところにつなげたり、地域の団体に所属してもらって地域の人にもきちんと認知をしてもらうようなサポートをしている。」

5. おわりに

本手引きで見てきた通り、「参加支援事業」には様々なパターンがあります。また、「参加支援」の種類も、そもそも「参加」の定義が様々であるがゆえに、この手引きで紹介した以上の様々なバリエーションが存在します。

(例えば、本手引きにおいては、地域の中での居場所事業など、「身体的な」参加を中心に取り上げましたが、「身体性を伴わないコミュニティへの参加（オンライン参加など）」や「制度への参加（居住支援や行政制度への接続など）」も「参加」の定義に含まれるはずです)

その中で、どの「参加」に注力し、事業を作っていくかは、地域の実情によって変わってくることが予想されます。「参加支援事業」の実施に向けた課題と解決に向けたポイントは上述の通り、類型化をして整理しましたが、最後に「参加支援事業」を構想する上で重要となる、事業全体を見据えるうえでの大切な「視点」について記載します。「参加支援事業」をはじめとする「重層的支援体制整備事業」は、「特定の課題を抱えた特定の当事者に、特定の行政サービスを提供する」という従来の行政支援とは異なり、地域資源を活用しながら、特定の制度にはおさまらない「狭間のニーズ」と向き合っていくことが求められます。そのような制度を運用するにあたっては、事業を所管する自治体の担当者にも新たな「視点」が求められており、以下3つの観点から記載をします。

課題の「発見者」でもあり、「解決者」でもある地域の担い手

地域の福祉課題の「発見」「解決」はこれまで行政主体で行ってきたことですが、地域住民の抱える課題が複雑化・複合化していく中で、行政単独での対応では限界もあり、地域団体や地域住民と連携した課題への対応が求められています。課題の「解決」を地域主体で行うだけでなく、「発見」から「解決」までを地域が担っていくケースなど、地域との連携のパターンは様々です。「参加支援事業のタイプ」にて説明した③'地域支援型（地域主体の課題発見・解決を支援）(p. 10 参照)は、「発見」から「解決」までを一気通貫して構想する点において、「参加支援」における一つの理想状態と言えるでしょう。

行政主体から地域との連携へと課題解決のあり方が変わってくる中で、行政に求められる視点、役割も変わります。地域資源をどのように活用するのか、地域資源がそのパフォーマンスを如何なく発揮できるようにするために行政はどのような役割が果たせるのか、という観点から改めて地域と向き合っていくことが求められています。

地域の当事者・担い手起点の事業設計

「参加支援事業」は、事業設計上は自治体主導の事業ではあるものの、参加の主体は当事者であり、支援の主体は、地域の担い手（地域資源）になってきます。

そこで、自治体は、自らが支援の主体になりすぎることなく、あくまで当事者・地域の担い手（地域資源）の課題・ニーズに沿って、彼らのサポート方法を考えていくことが重要になります。そのためには、行政の通例や方法を押し付けるのではなく、当事者や担い手と課題やニーズ、展望を共有しながら、「支援」が地域の関係者によって主体的、自律的に運営されている状態を目指していくことになります。当事者・地域の担い手（地域資源）の声を日々聞きながら、地域のニーズや、関係者の思いを把

握し、双方向的な対話を重ねて、「参加支援」の地域定着をサポートしていくことが求められるでしょう。

「狭間のニーズ」を抱えた当事者への眼差し

「参加支援事業」においては、狭間のニーズを抱えた当事者に対して、「参加」の機会を提供し、当事者の課題解決を推進することが企図されます。「参加支援事業」においては当事者が支援に「参加」することが前提となっており、例えば、居場所やコミュニティへの「参加」を当事者に対して強制することができない以上、当事者が「参加」に対して意欲的、継続的な状況を生み出すことが必要となります。その際、狭間のニーズを抱えた当事者にとっては、(かわいそうな)「支援対象者」とみなされ、参加を求められることは不本意で、逆に、支援対象者である当事者が、他の困り事やニーズを抱えた誰かのための活動の「支援者」となり、自分の「役割」を実感できるような参加のあり方を設計することで、当事者の参加への主体性や継続性を喚起することができるケースが多々存在します。

ある一面においては「狭間のニーズ」を抱えた支援対象者でありながら、別の一面においては困りごとを抱えた別人の「支援者」にもなりうる。当事者が持っている得意や経験を活かして、当事者がむしろ「支援者」になれる参加のあり方はないか。本手引きの中で紹介した、支援を受けるひとり親が講師になりうるプログラム事例(umau.・ひとり親支援)や、居場所に参加する課題を抱えている子どもたちが高齢者の家事を手伝う事例(三股町)は当事者が「支援者」として自らの「役割」を感じ、当事者の参加が主体的、継続的に実現している一例と言えるでしょう。当事者の得意なこと、好きなこと、できることに着目した多様な「参加支援」を地域に根付かせていくことが今後求められています。

以上、「参加支援事業」に求められる視点を3つの観点から記載しました。上記のポイントをおさえた事業づくりのためには、既存の取り組みにとらわれず、様々な個別支援・地域づくりに関する取り組みを進めていくことが重要になってくるでしょう。

課題類型 F. 事業実施(特に地域づくり)に向けたファーストアクション(p. 45 参照)にて紹介した事例も参考にしながら、ぜひ様々な取組を試していただければと思います。

本手引きを参考に、様々な自治体にて、様々な種類の「参加支援事業」が生まれ、地域共生社会の実現のきっかけとなれば幸いです。

厚生労働省 令和 3 年度 社会福祉推進事業

**重層的支援体制整備事業の促進に向けた多様な分野と
連携した参加支援の在り方に関する調査研究最終報告書**

令和 4 年 3 月

株式会社 Ridilover
〒113-0033 東京都文京区本郷3-9-1 井口ビル 2 階
TEL;03-6801-8799 MAIL:info.bd.ridilover.jp
<https://ridilover.jp/>
